



2014 年 5 月 28 日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る東海経済（2014 年 5 月）

[今月の景気判断]

東海経済は持ち直しが続いているが、一部に駆け込み需要の反動がみられる。輸出は横ばい圏で推移しているが、駆け込み需要の反動に伴い、生産が調整している。住宅投資の減少傾向も続いているが、雇用が横ばい圏で推移するほか、春闘での賃上げ率の高まりにより所得面からの景気下支え効果が期待できる。個人消費の落ち込みも想定内にとどまっており、消費増税前の駆け込み需要の反動は一時的とみられる。

今後は、大企業を中心とした賃上げ率の高まりや夏季賞与の増加など所得面の改善が見込まれるため、消費者マインドの一層の低下には歯止めがかかると予想され、消費の持ち直しが見込まれる。輸出は伸び悩む可能性もあるが、設備投資は製造業を中心に増加が見込まれ、非製造業や中小企業への波及も期待される。公共投資も消費増税に伴う対策による効果が見込まれ、景気は反動一巡後に持ち直すだろう。

[今月の景気予報]

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	→		→
個人消費	↘		↗	輸入	→		→
住宅投資	↘		→	生産	→		↘
設備投資	↗		→	雇用	→		→
公共投資	↗		↗	賃金	↗		↗

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

[当面の注目材料]

- ・世界景気～米中および新興国の景気先行き、日米の金融政策、ウクライナ情勢に伴う為替・株価への影響
- ・企業活動～消費増税後の生産活動の動向、設備投資の企業規模や業種における広がり、米中向け輸出
- ・家計～増税後の駆け込み需要の反動減、食品・エネルギー等の物価上昇、賃金の持ち直し時期

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 [名古屋] シニアエコノミスト 内田俊宏

〒461-8516 名古屋市東区葵 1 丁目 19-30

TEL:052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	4月のコメント	5月のコメント	ページ
1. 景気全般	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	持ち直しが続いているが 一部に駆け込み需要の反動がみられる	3～4
2. 生産	増税前の駆け込み需要による 増勢は一服	増税前の駆け込み需要による 増勢は一服	5～7
3. 雇用	持ち直しが一服している	横ばい圏で推移している	7～8
4. 賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9
5. 個人消費	増税前の駆け込み需要もあり 持ち直している	持ち直しが続いているものの、 駆け込み需要の反動がみられる	10～11
6. 住宅投資	緩やかに減少している	緩やかに減少している	12
7. 設備投資	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している	12～13
8. 公共投資	増加が一服している	増加している	13
9. 輸出入	輸出は減少傾向、輸入は増加傾向	輸出は横ばい圏、輸入は減少	14～15
10. 物価	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少	16

(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

(※) 参考資料：「グラフで見る景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>
【前月からの変更点】
1. 景気全般

景気の持ち直しが続く中、4月以降想定内ではあるが消費関連で駆け込み需要の反動が出ている。

3. 雇用

1～3月期の東海4県の完全失業率は2.7%（前年差－0.7%ポイント）と前年比で改善した。一方、東海3県の常用雇用指数は全国に比べて弱い動きが続いている。愛知県の有効求人倍率は改善を続けているが、新規求人倍率は横ばい圏の動きとなっている。

5. 個人消費

4月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比－12.8%と9ヶ月ぶりに減少した。想定内ではあるが、駆け込み需要の反動が出ている。

8. 公共投資

4月の東海3県の公共工事請負額は、前年比＋37.7%、季調済み前月比も＋53.5%と2ヶ月ぶりの増加となった。新年度に入り、消費増税に伴う対策の効果により、工事の請負が増加している。

9. 輸出入

4月の実質輸出（季調済）は前月比＋0.8%と2ヶ月ぶりに小幅増加し、実質輸入（季調済）は前月比－10.8%と2ヶ月ぶりに減少した。

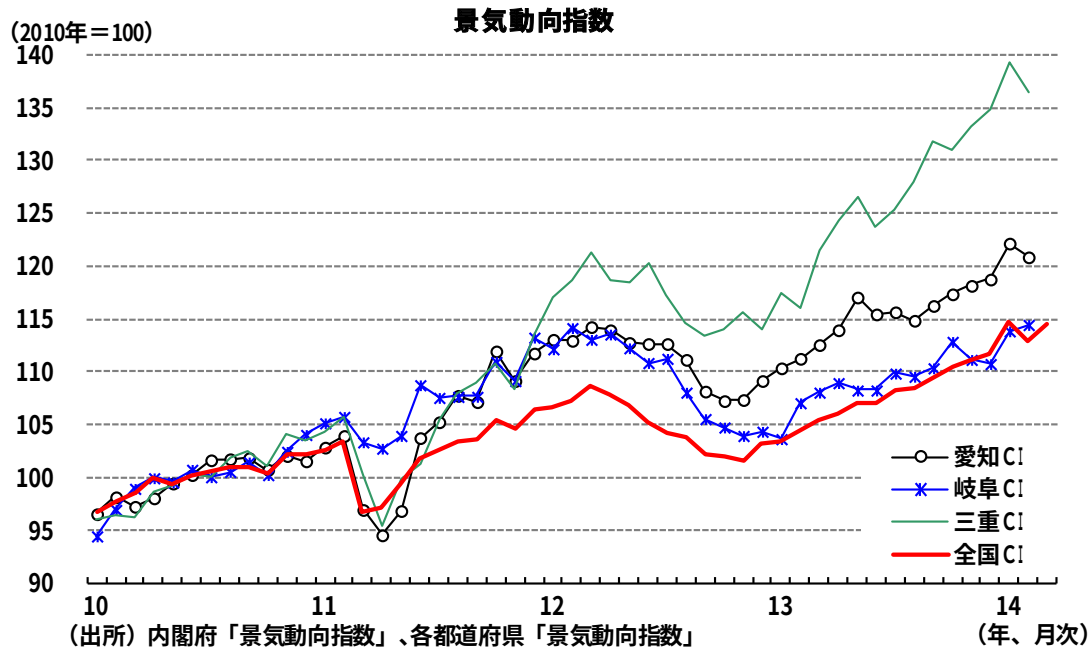
【主要経済指標の推移】

経済指標		13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 10-12	14 1-3	13 11	13 12	14 1	14 2	14 3	14 4
景気全般	景気動向指数 愛知 (C I、一致指数)	111.4	115.5	115.6	118.1	119.7	118.2	118.8	122.2	120.9		
	岐阜 (C I、一致指数)	106.3	108.5	110.0	111.6	112.0	111.2	110.8	113.9	114.5		
	三重 (C I、一致指数)	118.3	124.9	128.4	133.1	135.8	133.2	134.9	139.3	136.5		
	景気ウォッチャー調査 (現状判断DI)	52.8	54.5	52.3	55.7	57.1	56.2	58.4	56.6	54.6	57.0	43.2
	(先行判断DI)	55.4	55.4	53.7	54.4	52.0	53.1	56.2	46.6	40.4	34.6	47.9
	短観業況判断DI (大企業製造業)	-3	7	17	19	28	3 <6月予想>					
生産	(中小企業製造業)	-22	-11	-3	8	13	-9 <6月予想>					
	(非製造業)	-2	2	9	12	17	3 <6月予想>					
	法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.5	1.1	0.8	0.9							
	非製造業(兆円)	0.2	0.2	0.3	0.2							
	鉱工業生産 (季節調整済、前期比・前月比)	3.9	1.5	1.6	0.6	113.2	0.1	0.9	6.3	-2.2	0.5	
	鉱工業出荷 (季節調整済、前期比・前月比)	4.6	3.5	0.8	0.4	111.2	0.2	-0.6	5.9	-3.5	1.6	
	鉱工業在庫 (季節調整済、前期比・前月比)	-3.9	-1.3	-0.1	-3.8	109.6	-2.8	-0.3	2.5	2.8	-1.5	
	鉱工業生産 輸送機械 (")	8.9	0.7	-1.1	2.0	109.6	0.4	-1.3	8.9	-6.2	1.2	
	一般機械 (")	-3.9	4.6	0.1	4.1	123.9	1.2	0.3	12.6	-3.2	-5.1	
	電子部品・デバイス工業 (")	1.7	7.8	4.1	-2.0	178.3	1.1	0.1	6.4	11.3	5.8	
	プラスチック製品工業 (")	2.3	0.1	0.3	3.3	120.4	-0.2	0.0	7.0	-0.3	-1.4	
	化学 (")	5.0	-1.4	-2.4	0.0	89.3	-2.9	-2.2	3.4	-5.4	-9.0	
	電気機械 (")	3.5	-0.8	4.0	3.6	111.1	1.6	-0.2	4.2	0.6	-4.2	
	鉄 鋼 (")	5.6	3.1	-1.9	4.8	102.4	1.3	2.9	-2.3	-3.9	1.9	
雇用	金属工作機械受注 総受注 (億円)	290.0	322.5	352.2	360.8	340.0	358.4	363.1	329.0	316.0	375.0	
	国内受注 (億円)	80.4	93.8	113.2	122.8	112.5	127.4	120.6	104.9	105.7	127.0	
	海外受注 (億円)	209.6	228.7	239.0	241.2	227.5	240.5	242.6	224.1	210.3	248.1	
	大口販売電力量	-6.3	-1.7	0.2	3.6	5.1	2.5	3.7	6.2	4.5	4.6	
	完全失業率 (原数値、%)	3.4	3.5	3.1	3.3	2.7						
	就業者数 (原数値、万人)	762	773	778	774	759						
	常用雇用指数 愛知	99.4	100.1	100.2	100.2		100.4	100.3	100.1	100.1		
	岐阜	98.7	99.0	98.9	98.5		98.7	98.4	97.5	98.0		
	三重	96.8	97.8	98.9	98.0		97.8	97.9	97.5	97.1		
	有効求人倍率 愛知 (季節調整値、倍)	1.17	1.3	1.36	1.5	1.5	1.46	1.50	1.49	1.53	1.55	
賃金	岐阜 (季節調整値、倍)	0.99	1.1	1.11	1.2	1.2	1.20	1.22	1.22	1.23	1.25	
	三重 (季節調整値、倍)	0.90	1.0	1.07	1.2	1.2	1.16	1.19	1.19	1.21	1.21	
	新規求人倍率 愛知 (季節調整値、倍)	1.84	2.0	2.09	2.3	2.3	2.23	2.37	2.21	2.41	2.38	
	岐阜 (季節調整値、倍)	1.51	1.7	1.66	1.7	1.9	1.76	1.72	1.88	1.81	1.88	
	三重 (季節調整値、倍)	1.41	1.6	1.63	1.8	1.8	1.81	1.81	1.68	1.81	1.83	
	現金給与総額	-0.5	1.2	0.9	2.1		1.3	2.7	0.5	0.4		
	所定内給与	-0.1	0.8	0.3	0.6		0.6	0.2	0.2	0.0		
	所定外給与	-4.0	-0.4	3.6	8.4		8.9	7.8	4.5	6.2		
	勤労者世帯 (含む農家) の名目収入 勤め先収入	5.7	6.6	1.8	7.0	-2.3	11.5	4.3	0.9	1.0	-8.3	
	定期収入	3.5	-0.4	2.9	8.9	-3.0	6.1	10.0	-0.6	-0.9	-7.4	
個人消費	勤労者世帯 (含む農家) の名目消費支出	11.8	2.7	3.1	4.8	8.5	-2.9	4.6	6.6	13.0	6.8	
	百貨店販売額 (名古屋市内)	3.6	7.8	4.0	5.4	23.3	8.3	5.7	7.8	11.8	37.3	-12.8
	百貨店+スーパー販売額 (名古屋市内百貨店除く)	-2.4	1.1	3.2	3.0	6.8	2.7	2.3	3.0	5.9	11.8	
	コンビニエンスストア販売額	-1.4	0.3	0.3	1.4	0.1	2.3	1.9	-1.5	-0.2	1.9	
	新車登録台数 (含む軽)	-10.4	-9.0	3.5	19.8		15.3	23.0	33.8	16.8	15.0	-7.2
	家電販売額	-4.0	2.3				4.6	-1.9	12.0	28.1	73.6	
	消費者態度指数 (一般世帯、原数値)	43.7	46.3	45.0	41.1	39.1	41.9	40.0	41.2	38.3	37.7	37.3
	トヨタ国内生産台数 (季節調整値、万台)	29.3	29.3	27.6	26.0	30.0	26.3	24.6	30.6	29.9	29.4	28.0
住宅投資	新設住宅着工戸数 (季節調整済年率換算、千戸)	107.0	114.6	121.3	119.3	106.0	123.3	117.4	113.0	105.2	99.8	
	(前年比、%)	8.4	18.1	19.7	11.7	-1.1	17.3	11.5	5.8	-1.4	-7.7	
設備投資	法人企業統計設備投資 (製造業)	12.3	10.1	30.3	24.8							
	(非製造業)	17.9	-7.0	-12.9	0.8							
公共投資	企業立地件数	-	-	-	-	-	11	17	24			
	公共工事請負額	-4.5	6.5	26.7	5.4	-2.1	-2.5	13.0	-11.2	13.6	-4.3	37.7
輸出入	実質輸出 (季節調整値、07/12=100)	82.5	87.4	86.9	88.6	85.3	87.7	88.1	84.6	86.8	84.7	85.4
	通関輸出 (金額ベース、円建て)	6.7	10.9	16.6	22.0	7.3	22.0	20.1	13.0	7.3	2.6	4.2
	実質輸入 (季節調整値、07/12=100)	95.2	97.3	98.0	95.1	103.7	96.1	97.1	104.6	101.6	105.0	93.7
	通関輸入 (金額ベース、円建て)	5.7	6.7	11.1	22.2	20.0	18.7	24.0	25.3	12.3	22.1	1.8
物価	消費者物価指数 (除く生鮮)	-0.3	-0.1	0.6	1.1	1.2	1.2	1.3	1.1	1.3	1.3	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	-0.7	-0.3	0.0	0.8	0.9	0.8	1.0	0.8	1.0	0.8	
金融	国内銀行預金残高	1.1	1.6	1.9	2.6	2.4	3.4	2.6	2.9	2.6	1.7	
	国内銀行貸出残高	0.0	1.6	2.3	2.4	1.4	3.3	1.5	1.7	1.8	0.8	
倒産	倒産件数	-8.9	-12.5	-13.3	13.9	-5.9	0.0	-11.4	0.0	6.1	-18.8	-1.2

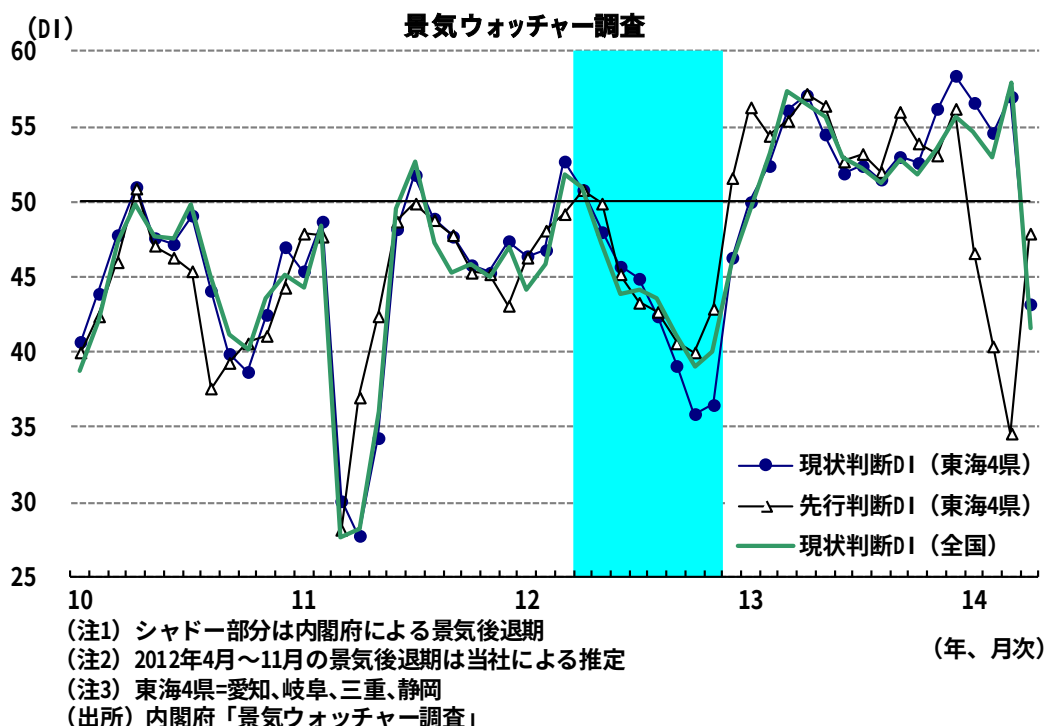
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ～持ち直しが続いているが、一部に駆け込み需要の反動がみられる

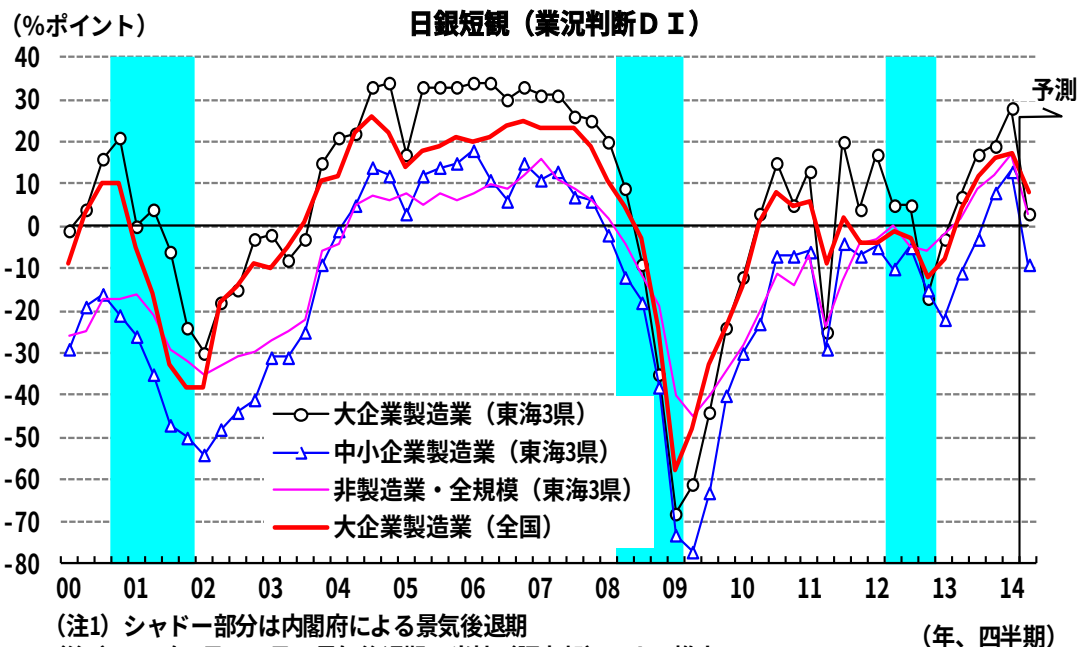
○2月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち6系列でマイナス寄与となり、前月差-1.3ポイントと6ヶ月ぶりに低下した。岐阜県は同+0.6ポイントと2ヶ月連続で上昇したが、三重県は同-2.8ポイントと4ヶ月ぶりに低下した。自動車など鉱工業生産の減少に伴い、愛知と三重で低下に転じた。先行指数は、3県ともに低下している。



○4月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、増税前の駆け込み需要の反動により、足元の景況感を示す現状判断D Iが前月差-13.8ポイントと大きく低下した。家計動向関連の現状判断D Iも同-17.0ポイントと2ヶ月ぶりに低下した。東海4県の先行判断D Iは、消費増税後の落ち込みが想定内にとどまっていることから、景気の先行きへの警戒感が和らぎ、同+13.3ポイントと上昇している。

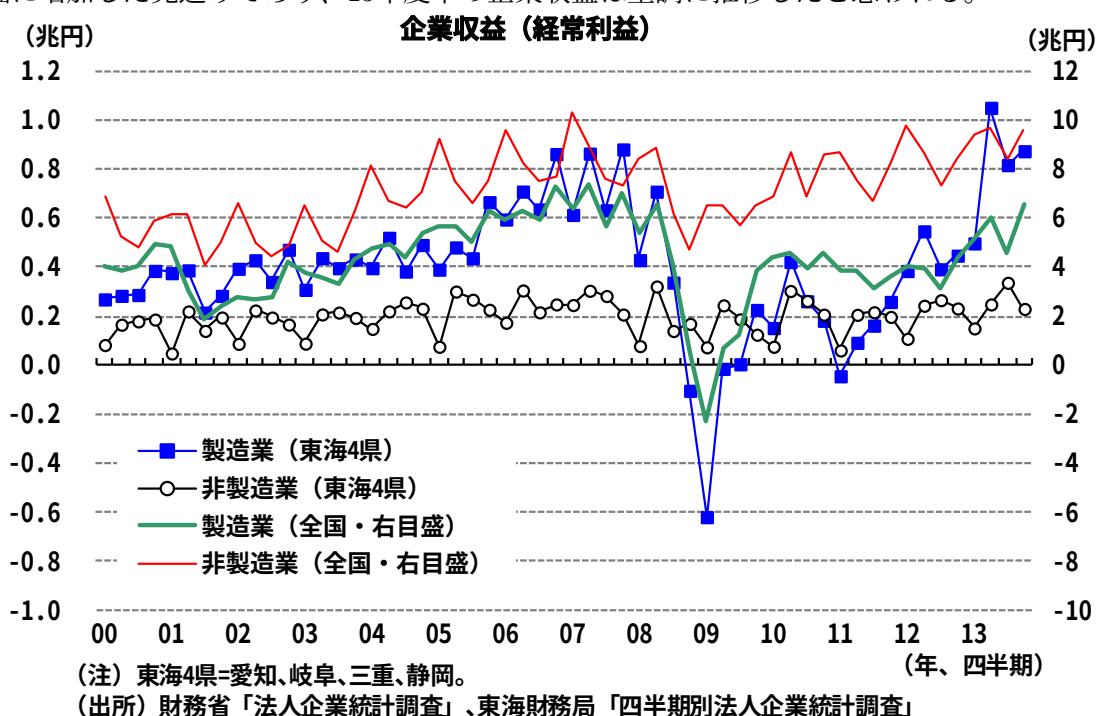


○日銀短観3月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I（「良い」－「悪い」）は+28と、前回調査から9ポイント改善した。全国を上回る伸びで、リーマンショック後の水準をほぼ回復した。中小企業製造業も+13と5ポイント改善した。業況判断D Iの6月予測は、増税後の反動を想定し、大企業製造業は+3と25ポイントの悪化、中小製造業でも-9と22ポイントの悪化が見込まれている。



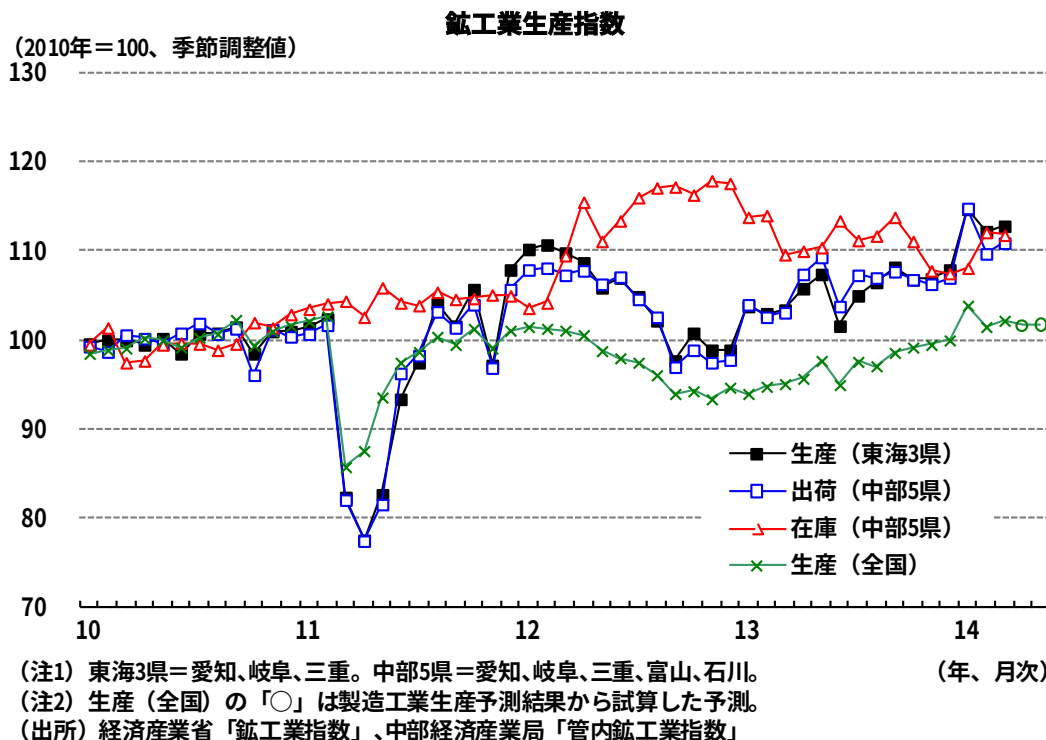
(出所) 日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

○2013年10～12月期の東海4県の企業収益（経常利益、製造業）は前期と同様に大幅な増益となった。円安に加え、米国や東南アジア向けの輸出が堅調に推移したためとみられる。非製造業は前年同期比で-0.8%と減少した。消費増税前の駆け込み需要に備えてトヨタの生産（季調済）が14年1～3月期に大幅に増加した見込みであり、13年度中の企業収益は堅調に推移したと思われる。

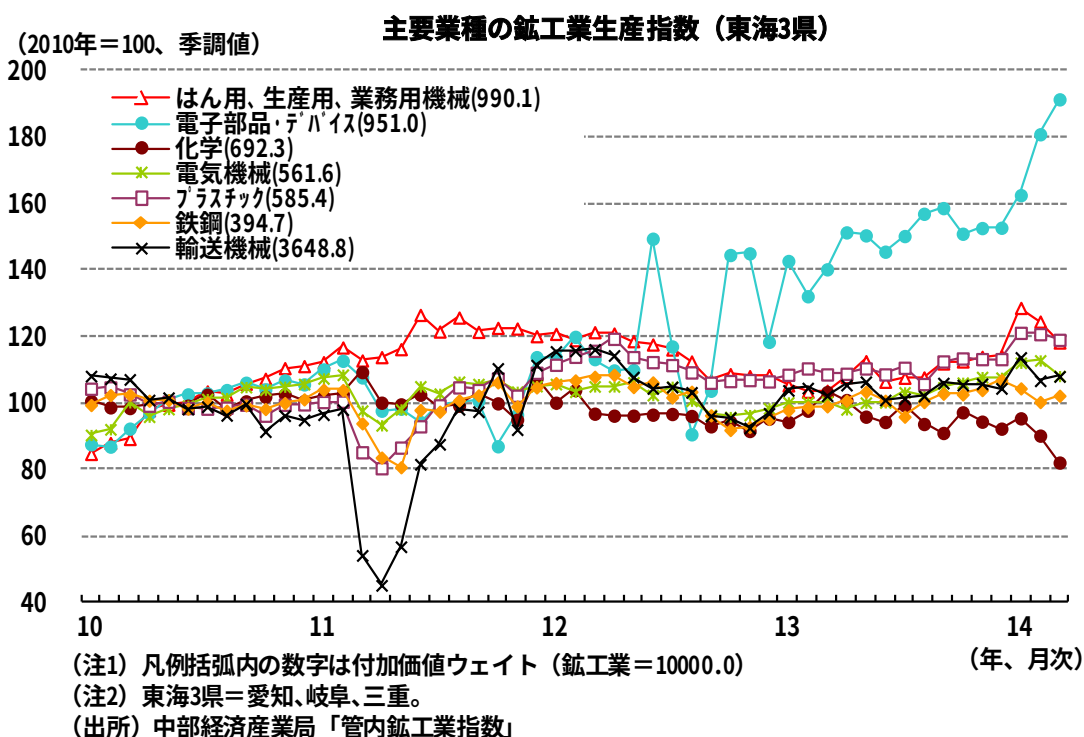


2. 生産 ～増税前の駆け込み需要による増勢は一服

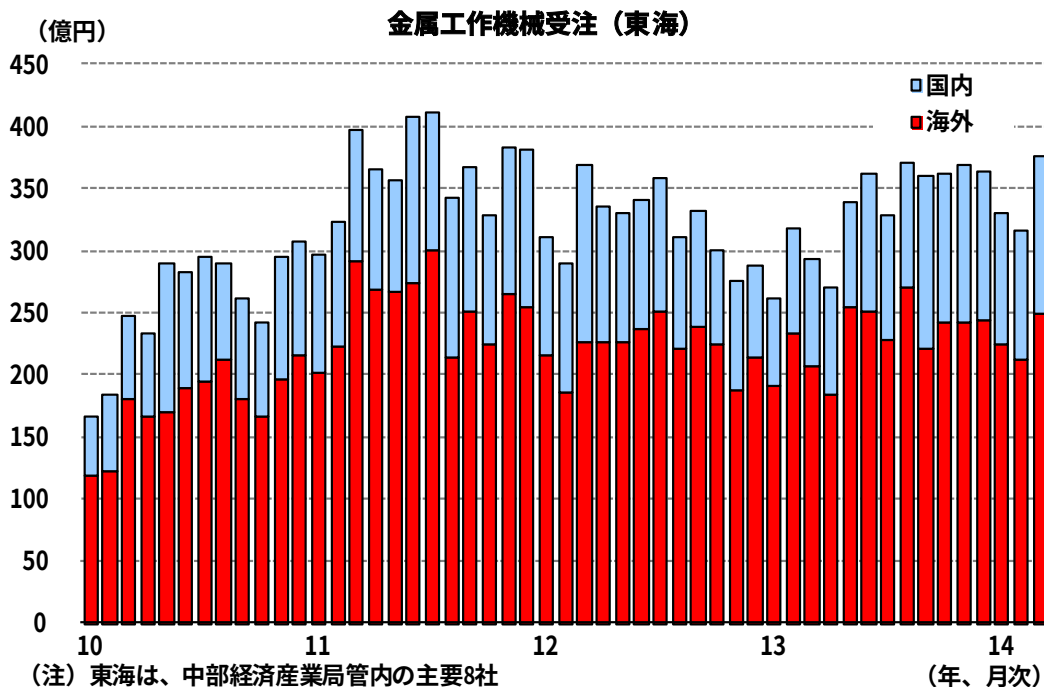
○東海3県の3月の鉱工業生産指数は、増税前の駆け込み需要による増勢が一服しているものの、前月比+0.5%と2ヶ月ぶりに増加し、比較的高水準で推移している。しかし、先行きは駆け込み需要の反動が続くため、4月以降は自動車販売の大幅な落ち込みに合わせて、自動車を中心に鉱工業全体での生産減が予想される（P.11下図 トヨタ国内生産計画参照）。



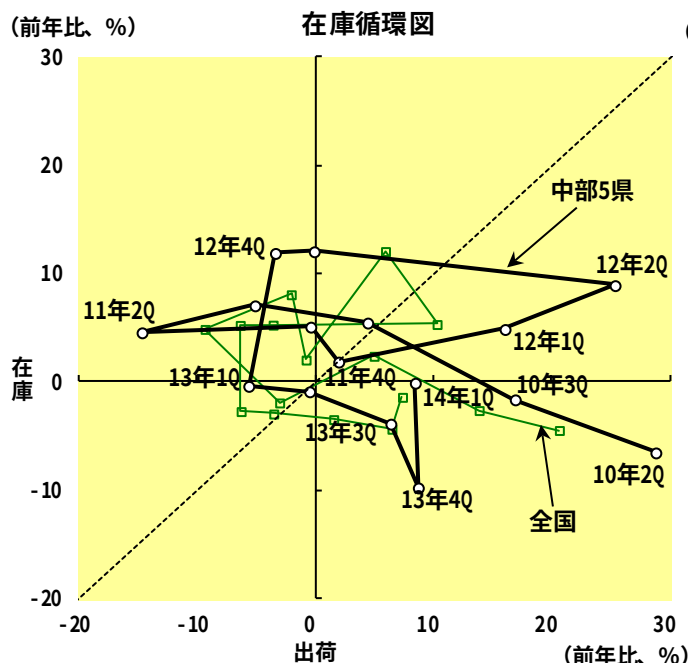
○業種別では、乗用車（前月比+1.4%）、自動車部品（同+1.0%）は2ヶ月ぶりに上昇し、輸送用機械全体で同+1.2%と2ヶ月ぶりに上昇した。自動車向けも多い鉄鋼（同+1.9%）は上昇し、航空機部品（同+0.3%）、電子部品・デバイス（同+5.8%）なども上昇した。一方、はん用・生産用・業務用機械（同-5.1%）やプラスチック（同-1.4%）は低下している。



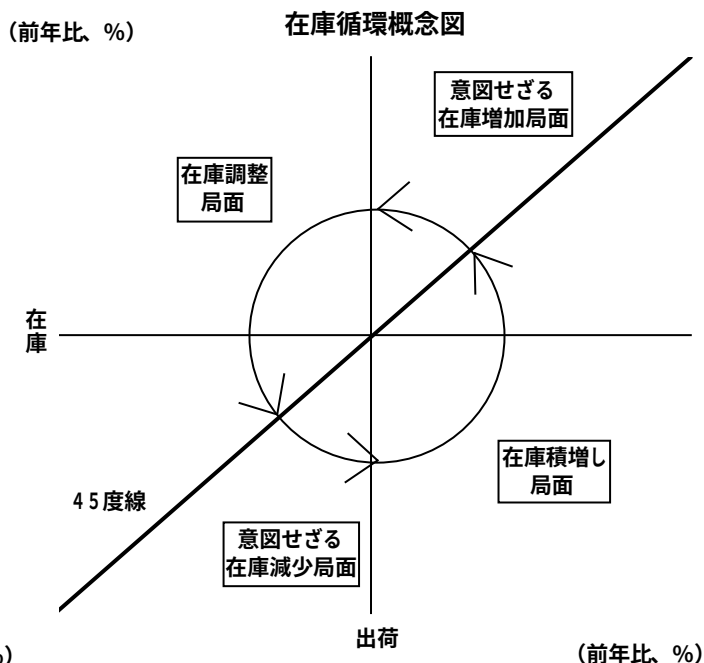
○3月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+28.3%と2ヶ月ぶりに増加した。国内受注は自動車向けを中心に同+47.3%と8ヶ月連続で増加した。海外受注も同+20.3%と2ヶ月ぶりに増加した。米国向け（同+21.1%）、欧州向け（同+30.5%）に加え、最大シェアの中国向け（同+21.9%）を含むアジア向け（同+7.2%）と主要地域で増加している。



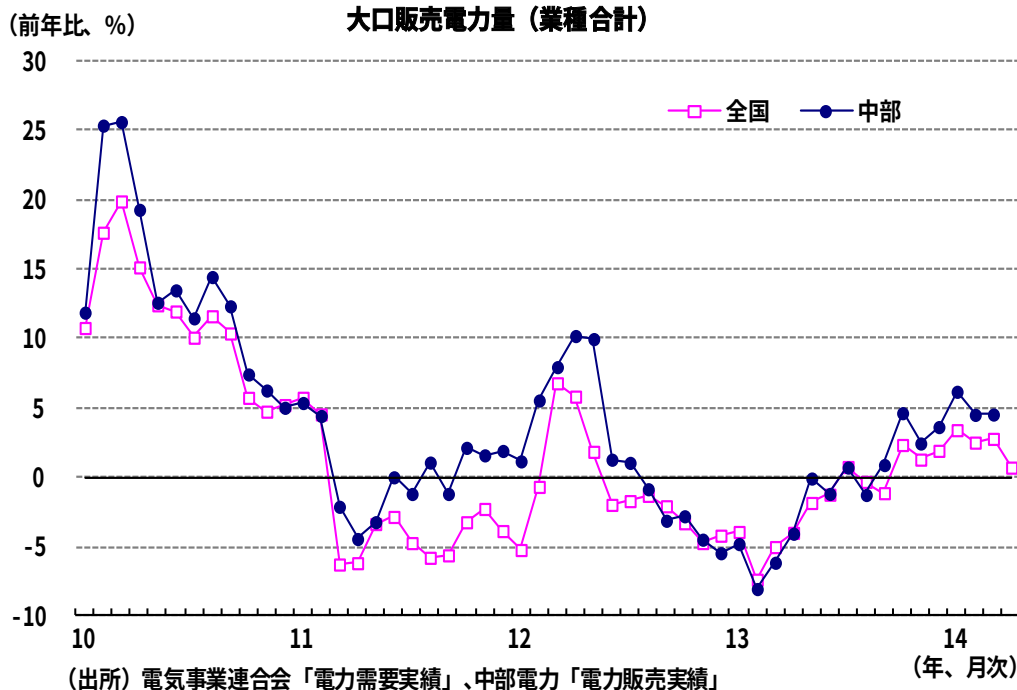
○3月の中部5県の出荷は、前月比+1.6%と2ヶ月ぶりに増加した。輸送機械や電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械などが増加した。在庫は、同-1.5%と3ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイス、電気機械工業などで増加した。前年比でみると、1~3月期は+8.4%と出荷が増加し、在庫は-0.1%と前年並みとなっている。



(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
(注2) 中部5県=愛知、岐阜、三重、富山、石川。
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」、中部経済産業局「管内鉱工業指数」

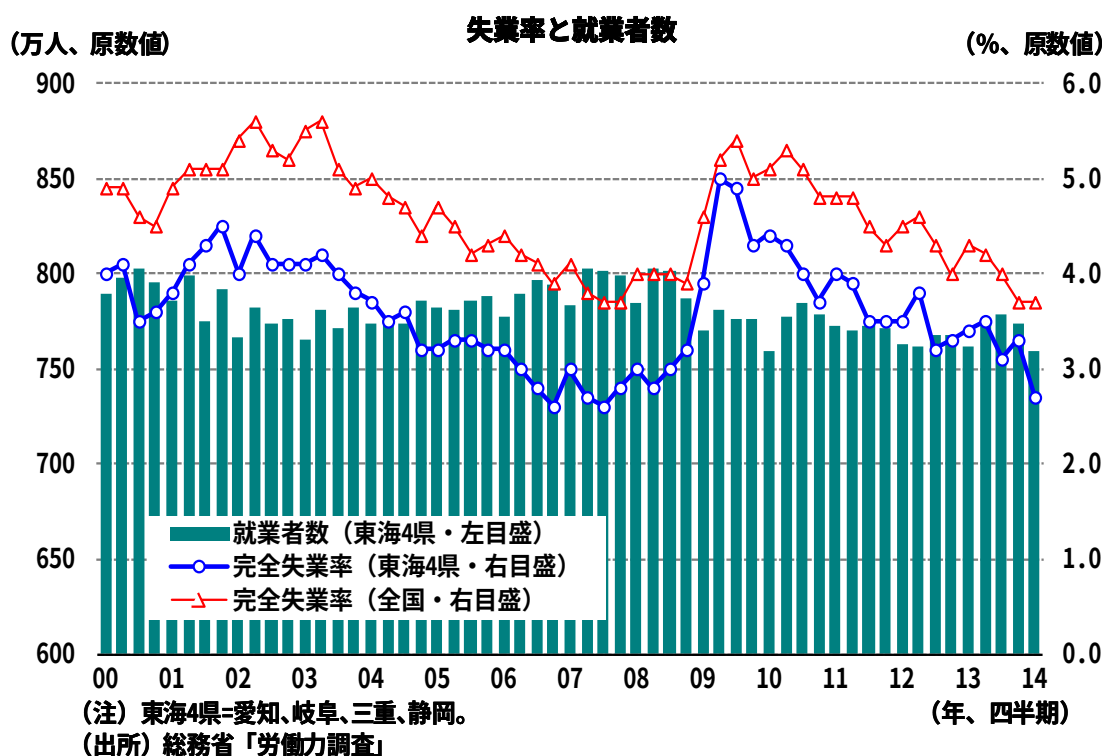


○3月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比+4.6%と7ヶ月連続で増加した。自動車などの機械工業向けが同+6.6%と9ヶ月連続で増加した。自動車用鋼材や建築用鋼材の生産増が続いている鉄鋼業向けは、同+14.1%と7ヶ月連続で増加した。自動車部品を含む窯業・土石向け（+4.1%）も増加している。

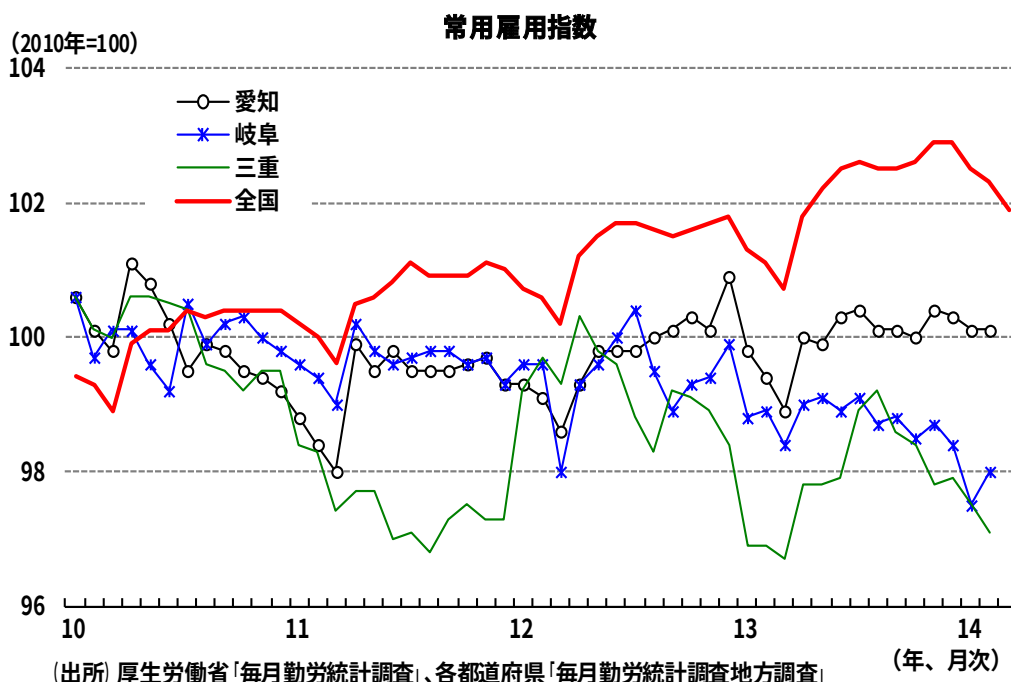


3. 雇用 ～横ばい圏で推移している

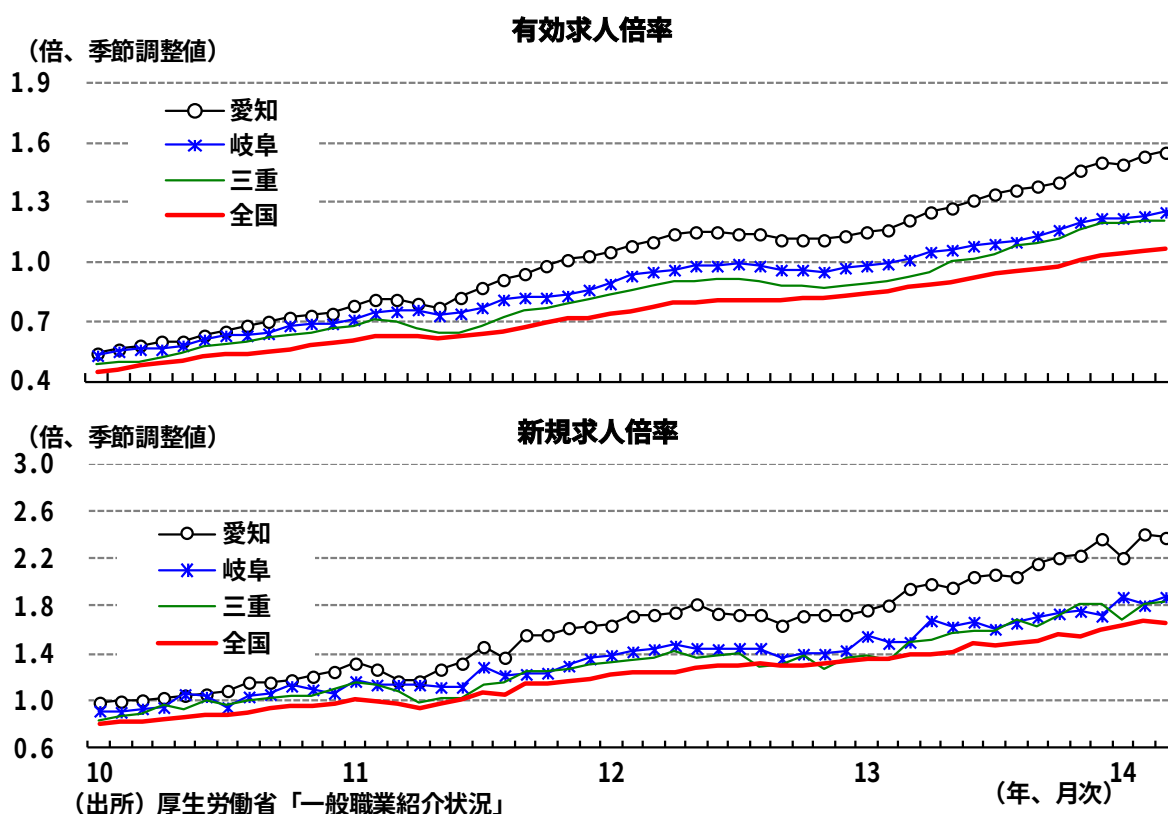
○2014年1～3月期の東海4県の完全失業率は2.7%（前年差-0.7%ポイント）と前年比で大きく改善し、全国（3.7%）と比べても低水準となっている。一方、同時期の就業者数は前年差3万人の減少となった。東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いている。愛知県の有効求人倍率が改善を続けているが、新規求人倍率は横ばい圏の動きとなっている。



○2月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.7%、三重県も同+0.2%と2ヶ月連続で上昇した。岐阜県は同-0.9%と11ヶ月連続で低下している。全国（同+1.2%）の改善に比べて依然として弱い動きが続いている。

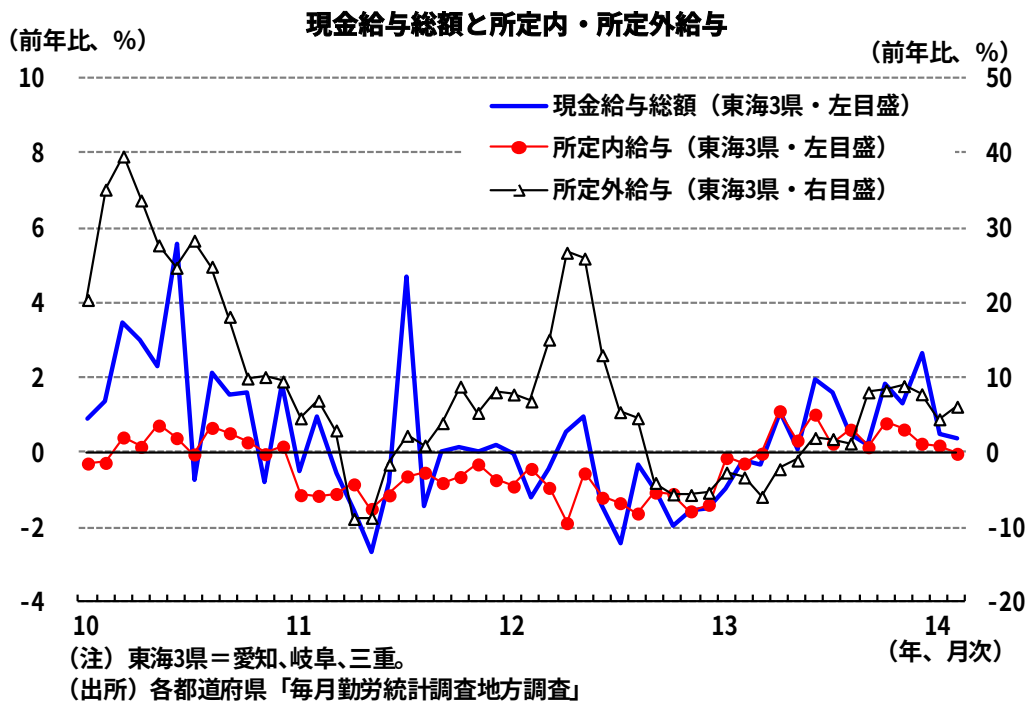


○3月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県が1.55倍と2ヶ月連続で上昇し、5ヶ月連続で全国トップとなった。岐阜県は1.25倍と2ヶ月連続で上昇し、三重県は1.21倍と前月と同水準となった。新規求人倍率（同）は、愛知県が2.38倍と2ヶ月ぶりに悪化した。岐阜県は1.88倍と2ヶ月ぶりに上昇し、三重県も1.83倍と2ヶ月連続で上昇した。

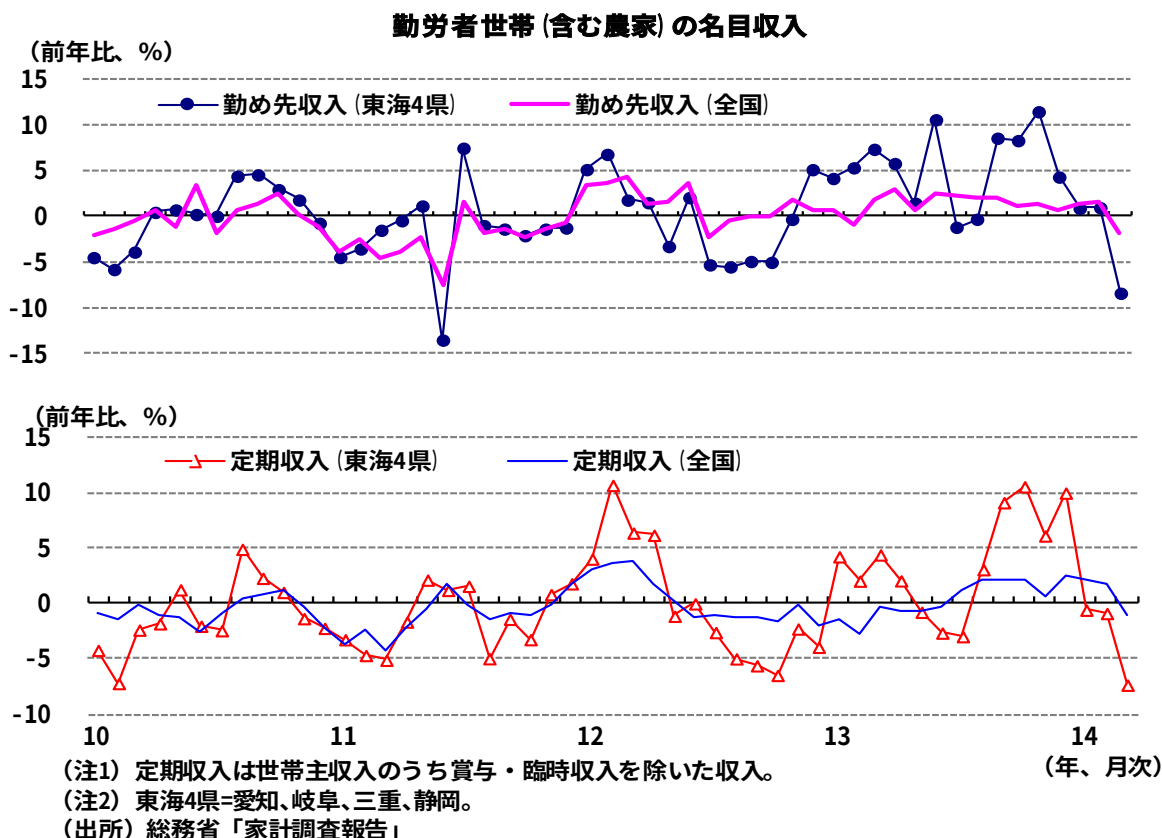


4. 賃金 ～緩やかに持ち直している

○2月の一人当たり現金給与総額は、前年比+0.4%と増加し11ヶ月連続のプラスとなった。所定内給与は同0.0%と横ばいとなったが、所定外給与が同+6.2%と9ヶ月連続で増加し、全体の伸びを支えた。企業の人件費抑制姿勢は中小・零細企業を中心に根強いが、春闘では定昇に加えベアを実施する企業が増えたほか、夏のボーナスも増加が見込まれるため、賃金は持ち直し傾向が続くだろう。

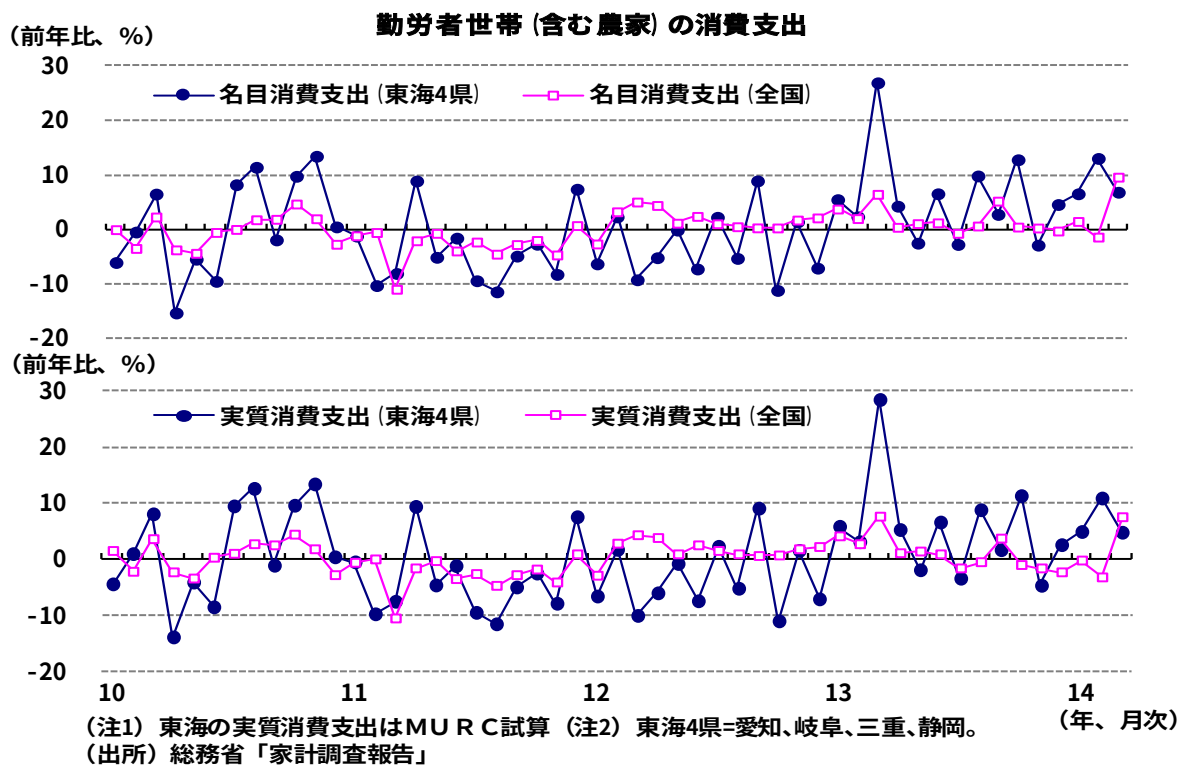


○家計調査によると、3月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比-8.3%と7ヶ月ぶりに減少した。3月の定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）は前年比-7.4%と3ヶ月連続で減少した。

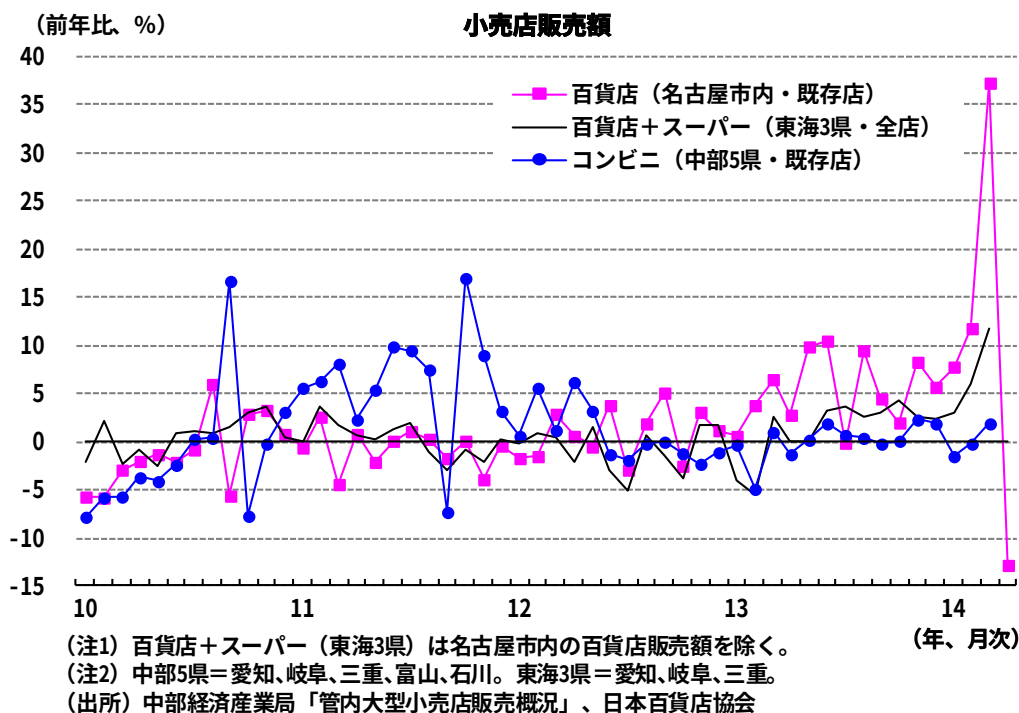


5. 個人消費 ～持ち直しが続いているものの、駆け込み需要の反動がみられる

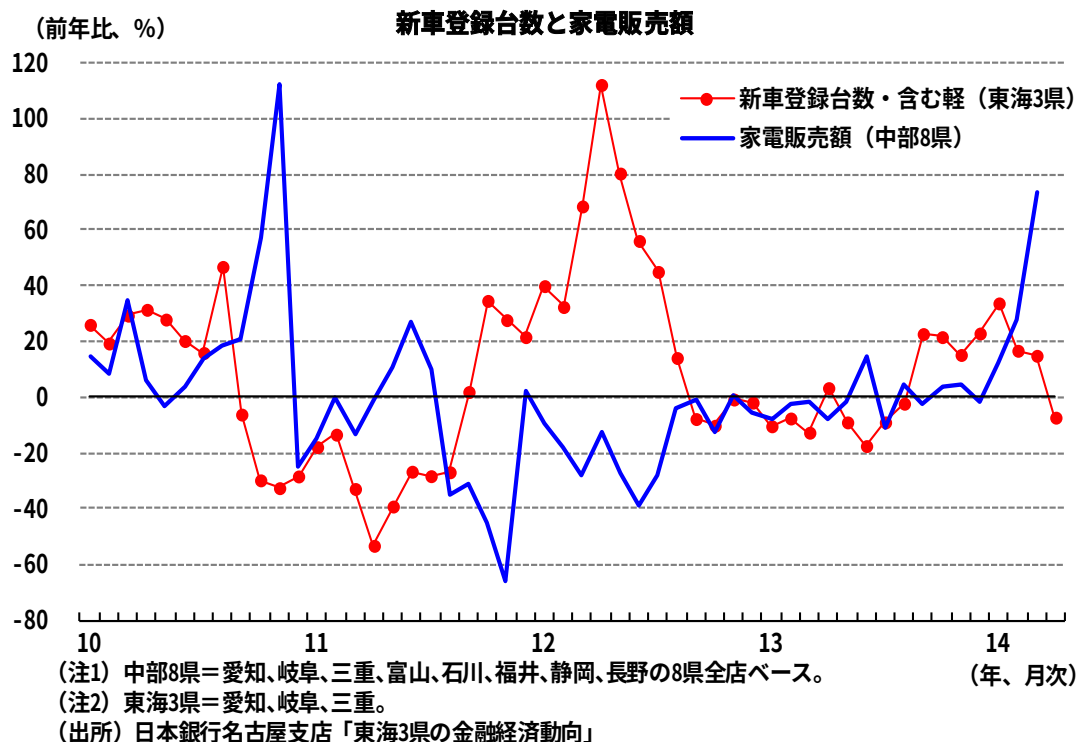
○3月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比+6.8%と4ヶ月連続で増加した。消費者マインドが悪化する中で、名目・実質消費支出とも均してみると持ち直し傾向が続いている。今後は、増税後の反動が顕在化するものの、春闘の妥結結果や夏のボーナス支給の増加見込みにより、消費者マインドの悪化に歯止めがかかり、消費は持ち直し基調を続けるだろう。



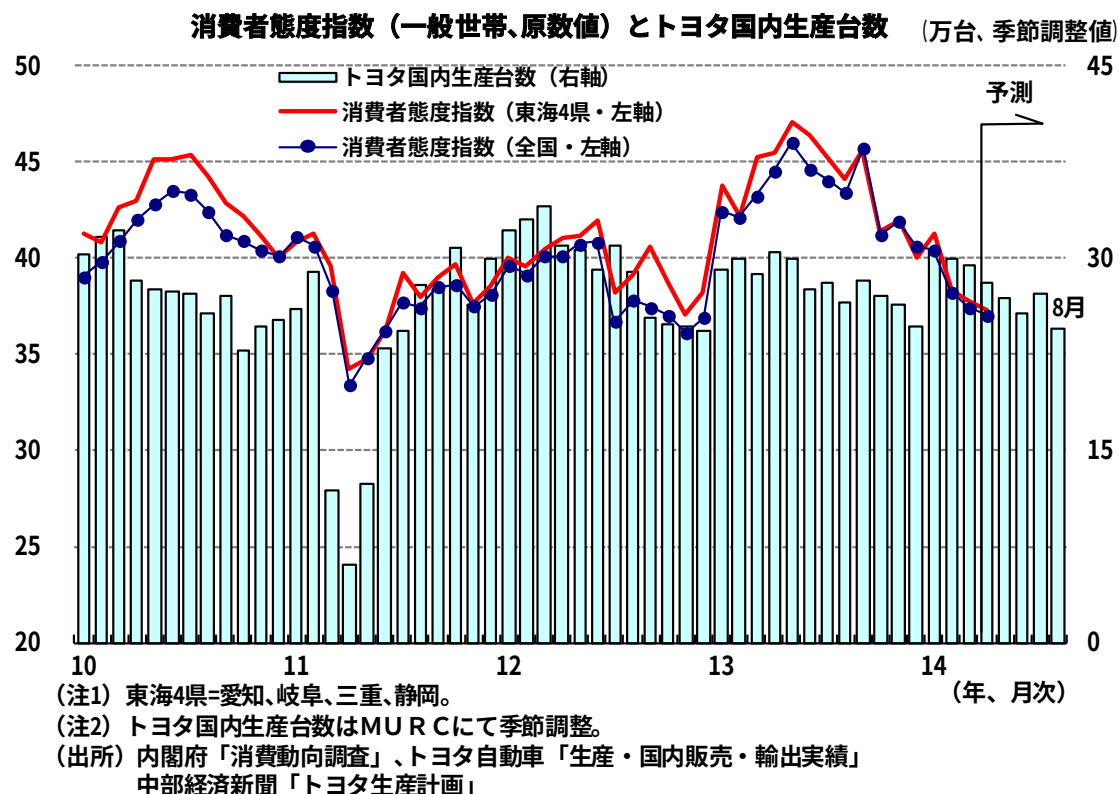
○4月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比-12.8%と9ヶ月ぶりに減少した。増税前の駆け込み需要の反動が出ているが、落ち込み幅は想定内にとどまっている。3月の東海3県の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は日用品などの駆け込みもあり、同+11.8%と13ヶ月連続で増加した。中部5県のコンビニ販売額も、たばこ等の駆け込みにより、同+1.9%と3ヶ月ぶりに増加した。



○4月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比－7.2%と8ヶ月ぶりに減少した。増税前の駆け込み需要の反動がみられるが、低燃費のハイブリッド車やコンパクトカーの販売が下支えとなり、販売の落ち込みは想定内にとどまっている。3月の中部8県の家電販売額は駆け込み需要を背景に同＋73.6%と3ヶ月連続で増加した。

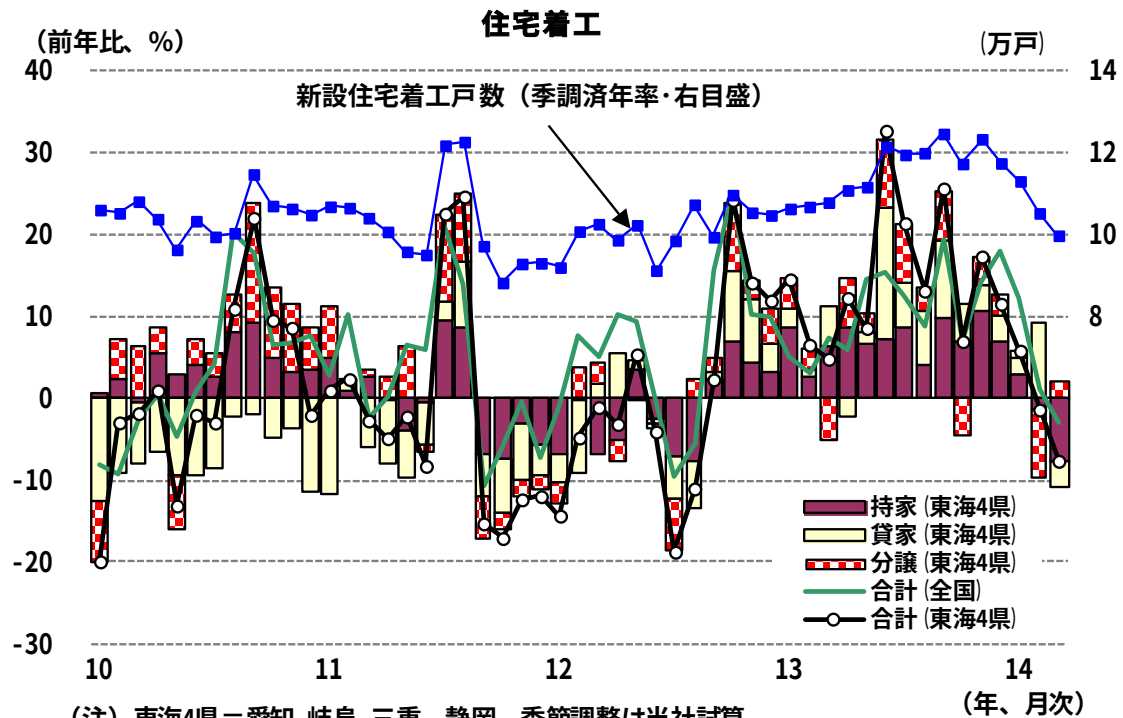


○消費者マインドを表す4月の消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、前月比－0.4ポイントと、3ヶ月連続で悪化した。トヨタの国内生産は比較的高水準を維持しているものの、消費増税後の反動を警戒し消費者マインドは悪化傾向となっている。ただし、増税後の落ち込みが想定内にとどまっているため、消費者マインドの悪化にも歯止めがかかりつつある。



6. 住宅投資 ～緩やかに減少している

○3月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比-5.2%と4ヶ月連続で減少した。前年比では-7.7%の8,000戸と2ヶ月連続の減少となった。利用関係別の寄与度では、分譲は同+1.9%と増加したが、持家(同-7.7%)と貸家(同-3.2%)はマイナスに寄与した。昨年9月末の契約ベースでの現行税率適用期限前の駆け込み需要が一段落した後、着工ベースでは徐々に水準を切り下げている。

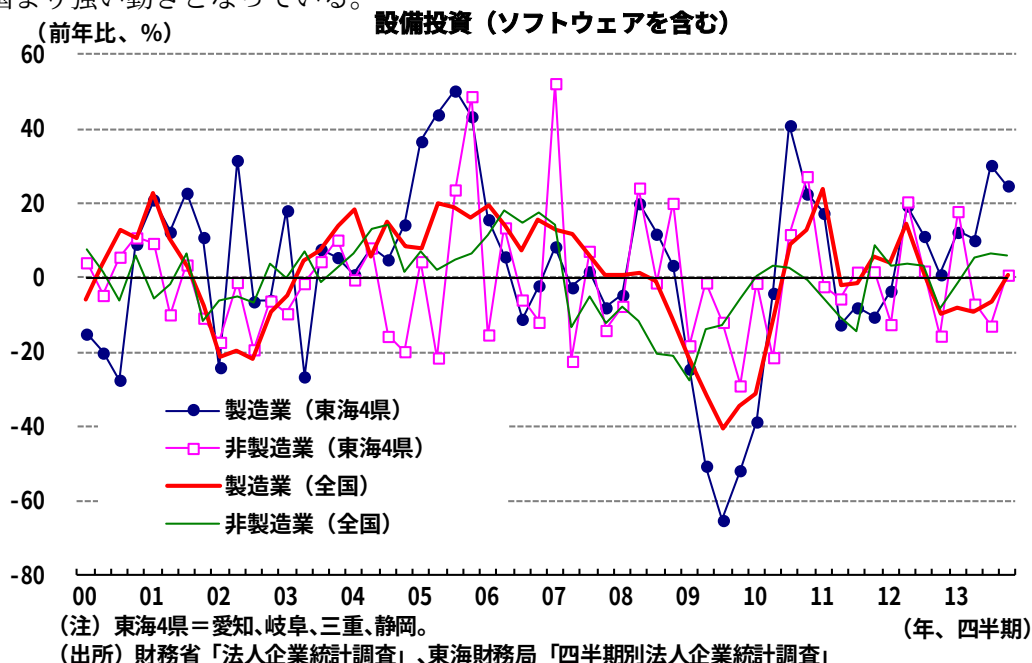


(注) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社試算。

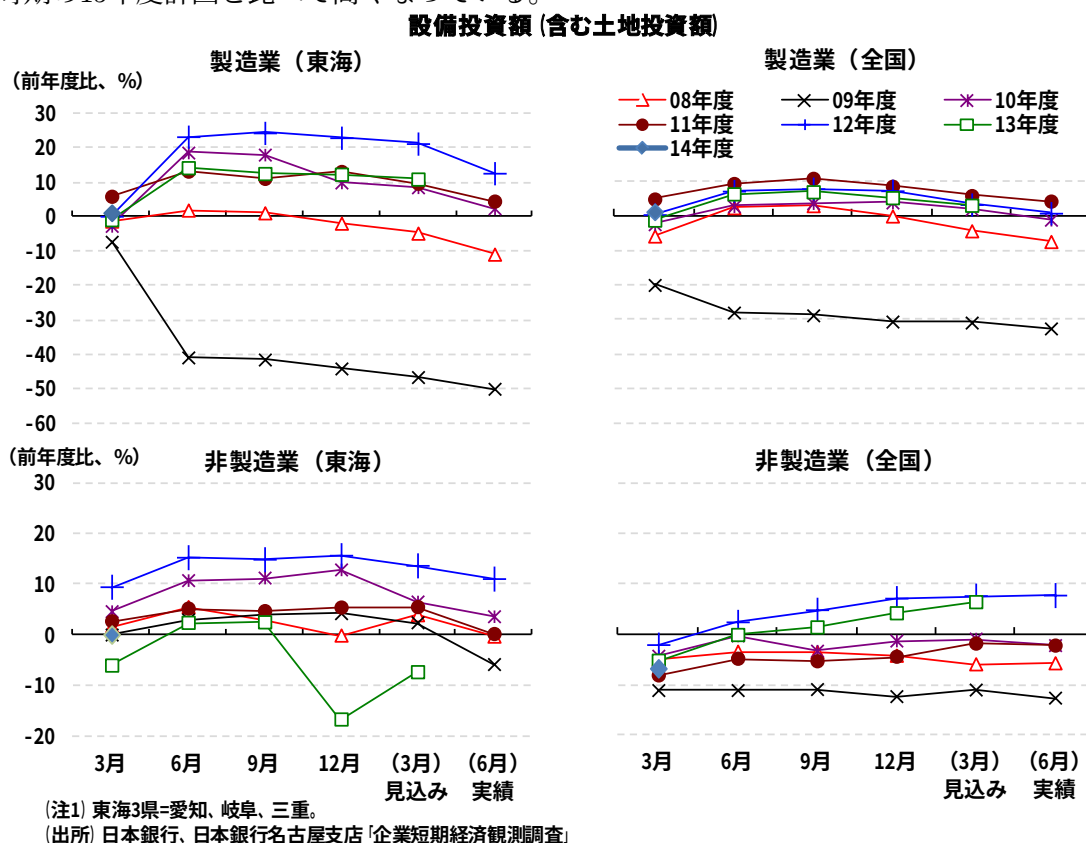
(出所) 国土交通省「建設着工統計」

7. 設備投資 ～製造業を中心に増加している

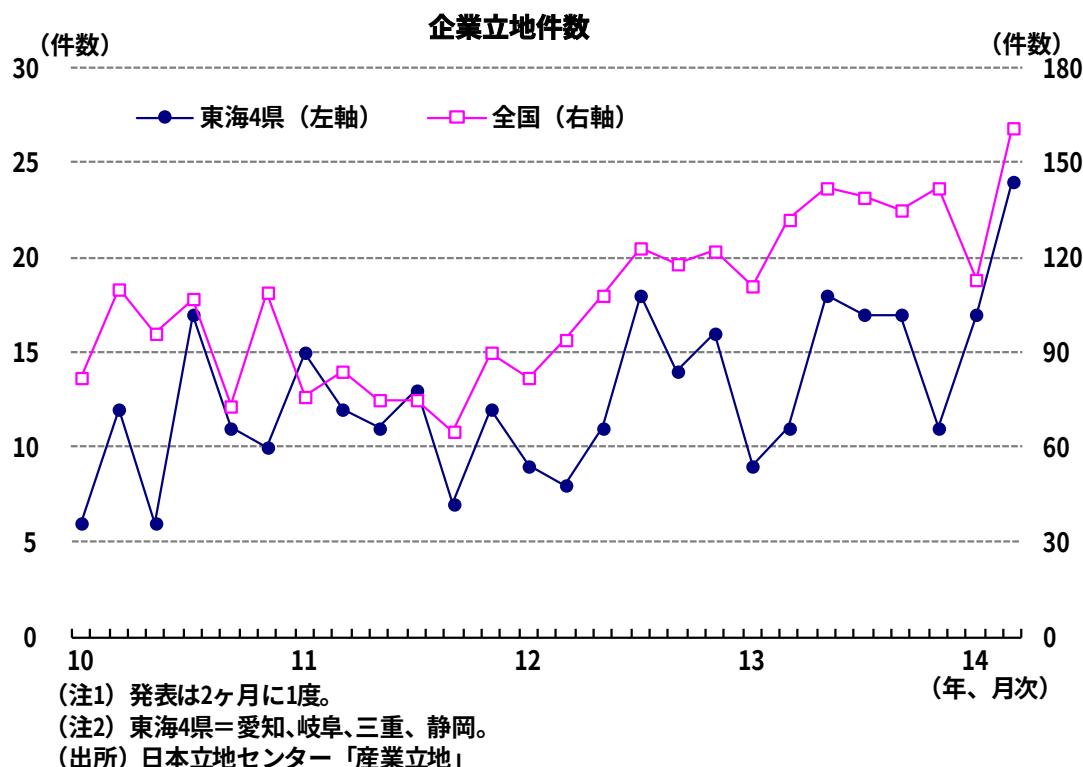
○2013年10～12月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+11.6%と4四半期連続で増加し、増加幅も前期7～9月期(+7.4%)から拡大した。非製造業の設備投資が前年比+0.8%、製造業が前年比+24.8%と増加した。全国は非製造業の設備投資を中心に増加しているが、東海では製造業が全国より強い動きとなっている。



○日銀短観3月調査では、13年度の設備投資が、製造業で維持・更新投資などを中心に前年比+11.0%と増加見込みとなる一方、非製造業では電気・ガス的大幅な下方修正が響き、同一-7.3%と減少見込みとなっている。14年度計画は、製造業が同+1.2%、非製造業が同0.0%となっており、それぞれ前年同時期の13年度計画と比べて高くなっている。

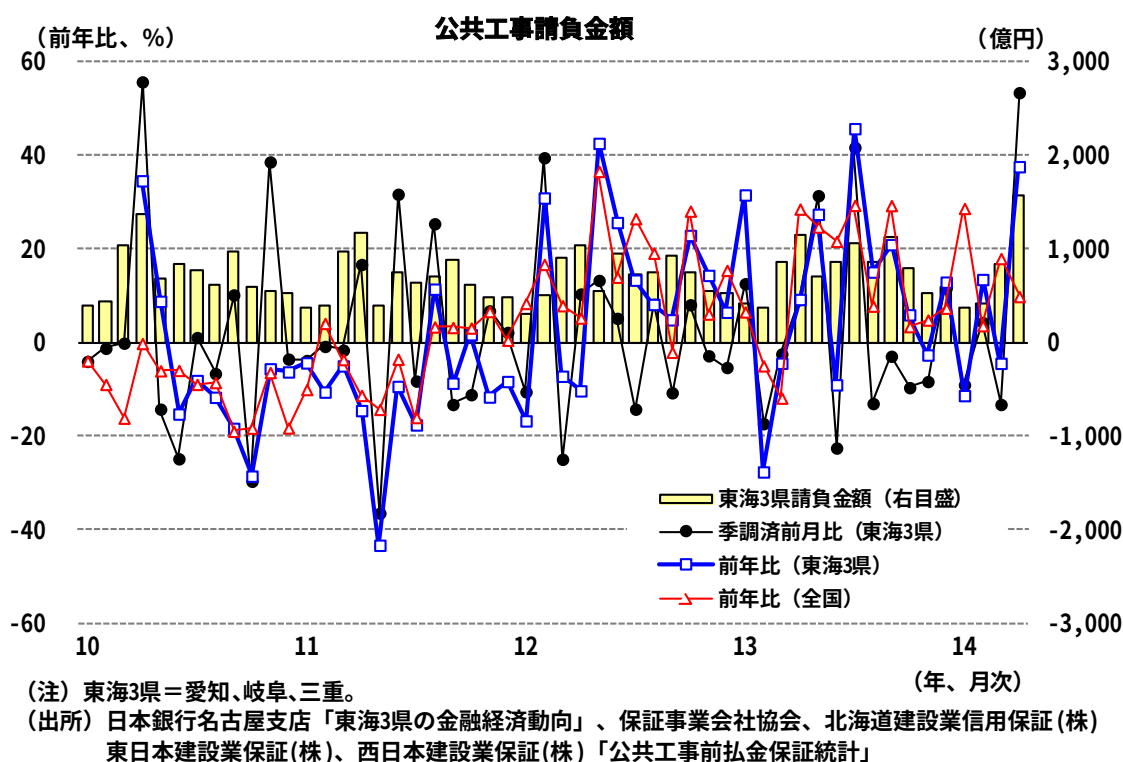


○2014年2月・3月の東海4県の企業立地件数は24件と、前期（17件）から7件増加し、前年同期（11件）と比べても13件増加した。東海地域では、2012年以降、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んでいたが、全国の動きに追いついてきた。



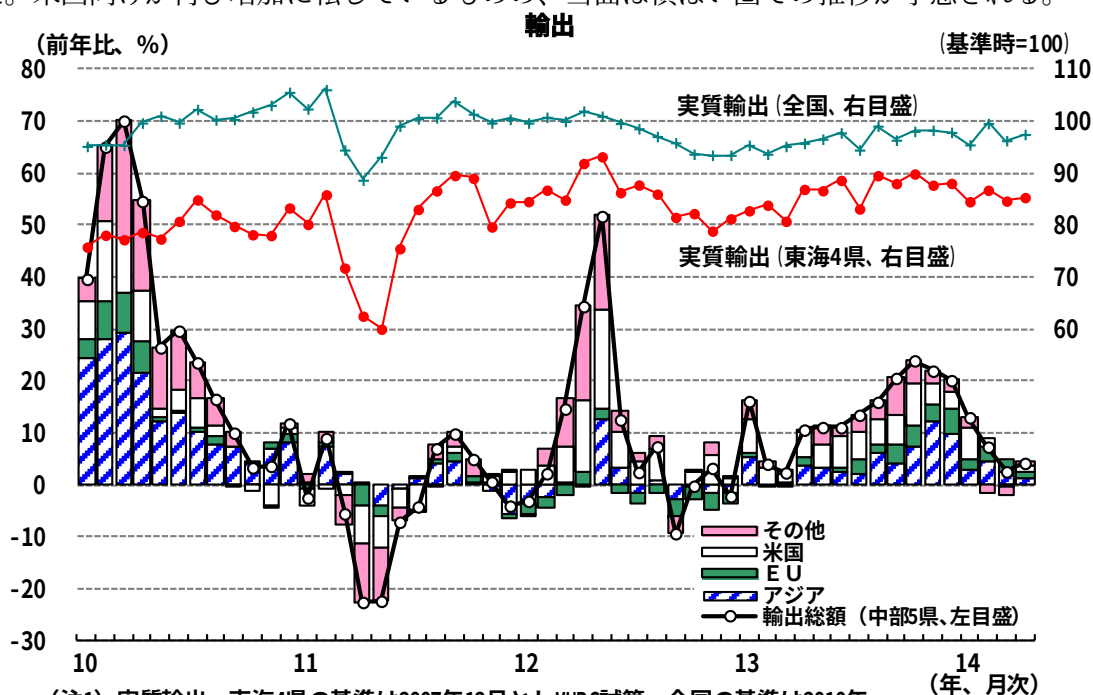
8. 公共投資 ～増加している

○4月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+37.7%の1,577億円と2ヶ月ぶりに前年を上回った。発注者別では、国が同+101.4%と3ヶ月連続で増加、地方は同+13.7%と2ヶ月ぶりに増加した。季調済み前月比も+53.5%と2ヶ月ぶりの増加となった。新年度に入り、消費増税に伴う対策の効果により、国の発注分を中心に工事の請負が増加している。



9. 輸出入 ～輸出は横ばい圏、輸入は減少

○4月の実質輸出（季調済）は、前月比+0.8%と2ヶ月ぶりに小幅増加した。4月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比+4.2%と16ヶ月連続で増加したが伸びは鈍化した。アジア向けは同+2.8%と16ヶ月連続で増加し、EU向けも同+10.6%と13ヶ月連続で増加し、米国向けも同+4.5%と2ヶ月ぶりに増加した。米国向けが再び増加に転じているものの、当面は横ばい圏での推移が予想される。

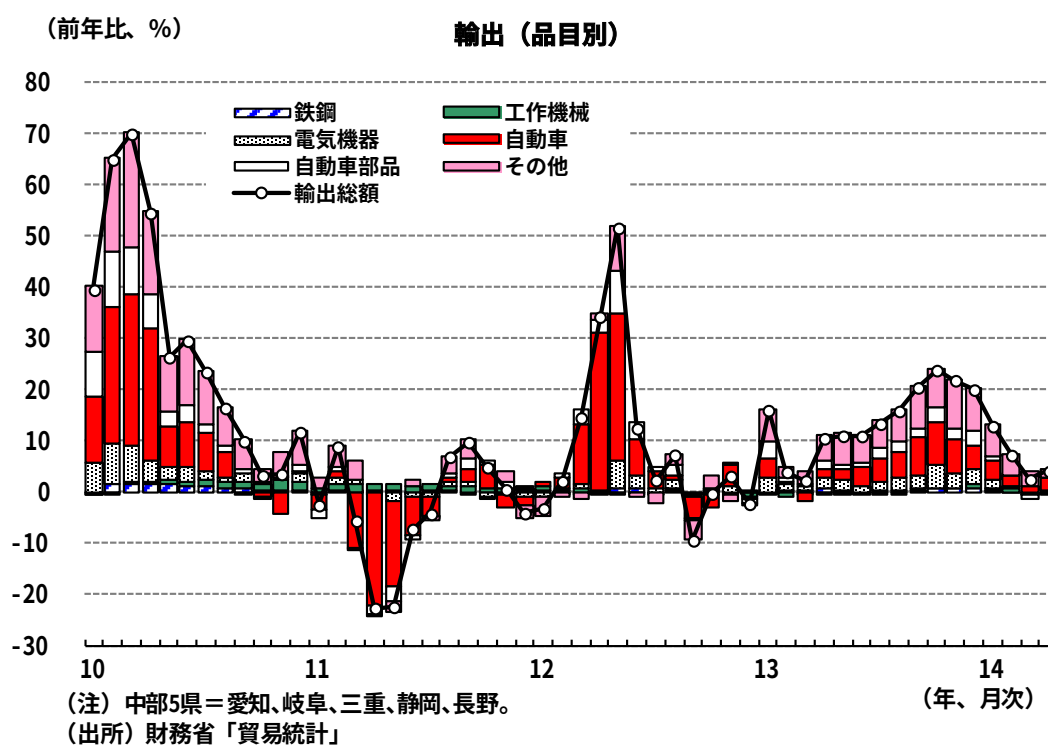


(注1) 実質輸出＝東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。

(注2) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

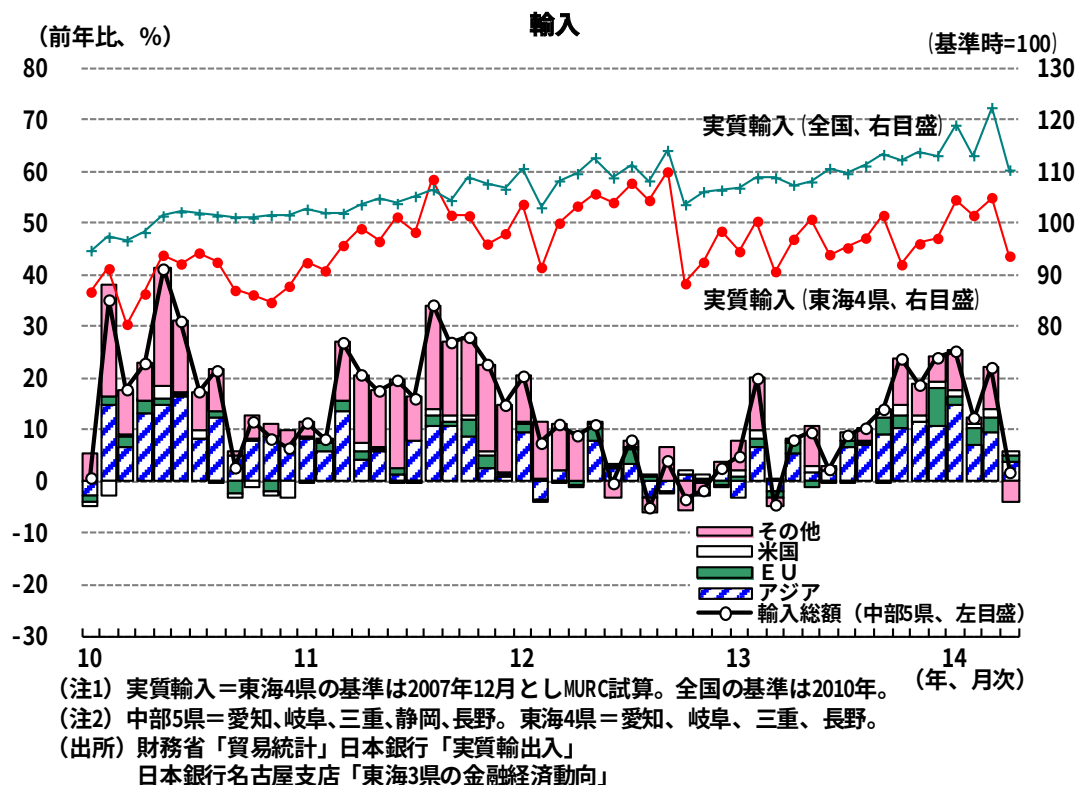
○4月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比+7.8%）は増加し、自動車部品（同+1.4%）も2ヶ月ぶりに増加したほか、鉄鋼（同+2.3%）、工作機械（同+18.8%）がそれぞれ2ヶ月ぶりに増加した。電気機器（同-1.9%）は2ヶ月連続で減少した。



(注) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。

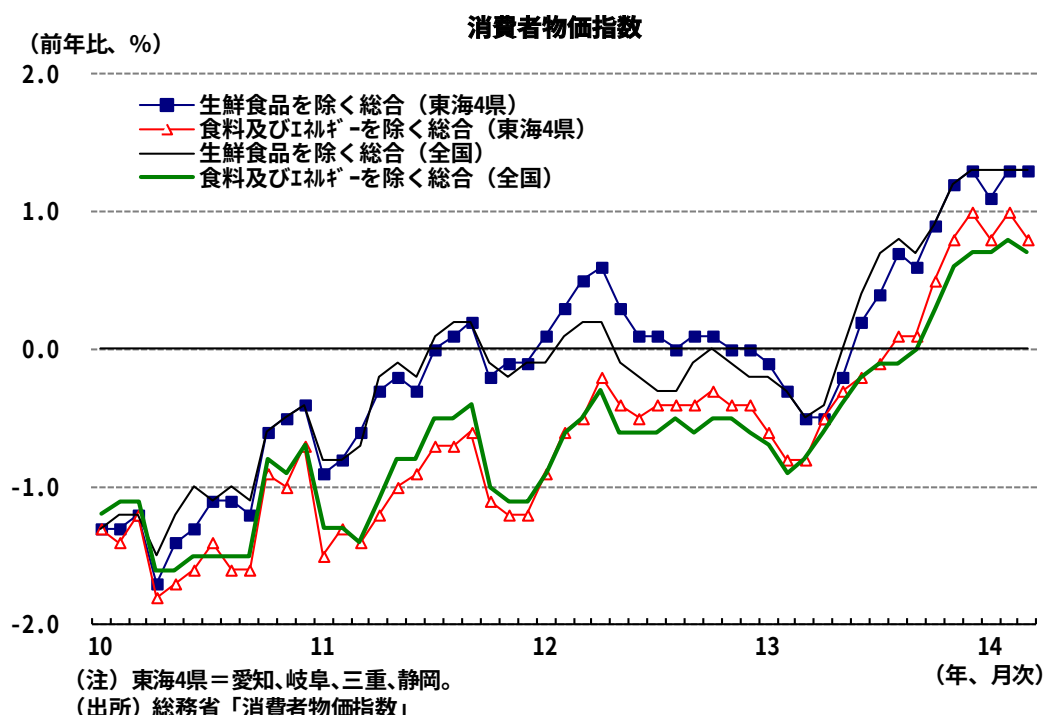
(出所) 財務省「貿易統計」

○4月の実質輸入（季調済）は前月比-10.8%と2ヶ月ぶりに減少した。増税前の駆け込み需要の反動により大きく減少した。一方、4月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+1.8%と13ヶ月連続で増加したが、増加幅は大きく縮小した。当面は、駆け込み需要に伴う輸入増の反動が続くとみられ、実質輸入は低下した水準のまま横ばい圏で推移すると予想される。



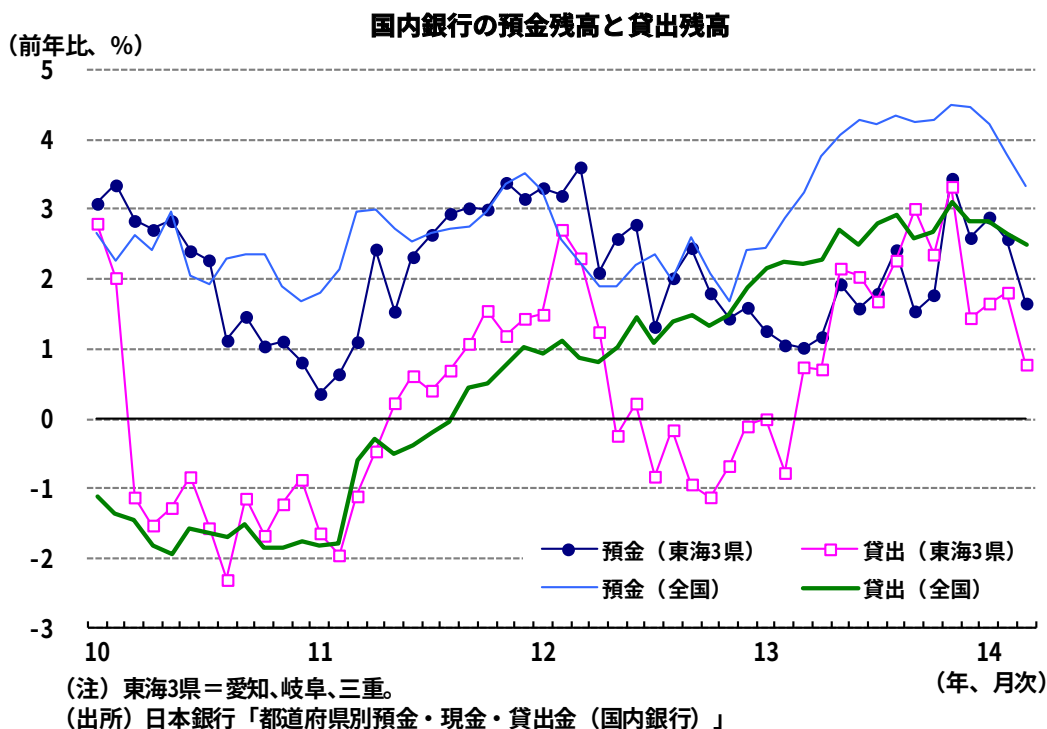
10. 物価 ～消費者物価は上昇

○3月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で、前年比+1.3%と10ヶ月連続のプラスとなった。電気・ガス料金やガソリン代、洋服などの上昇が寄与した。食料・エネルギーを除く総合は、同+0.8%と8ヶ月連続のプラスとなった。輸入物価上昇に伴うコストアップ要因は一巡しつつあるが、需給の引き締めにより幅広い品目で値上げが見込まれ、今後も、物価は上昇傾向が続くとみられる。



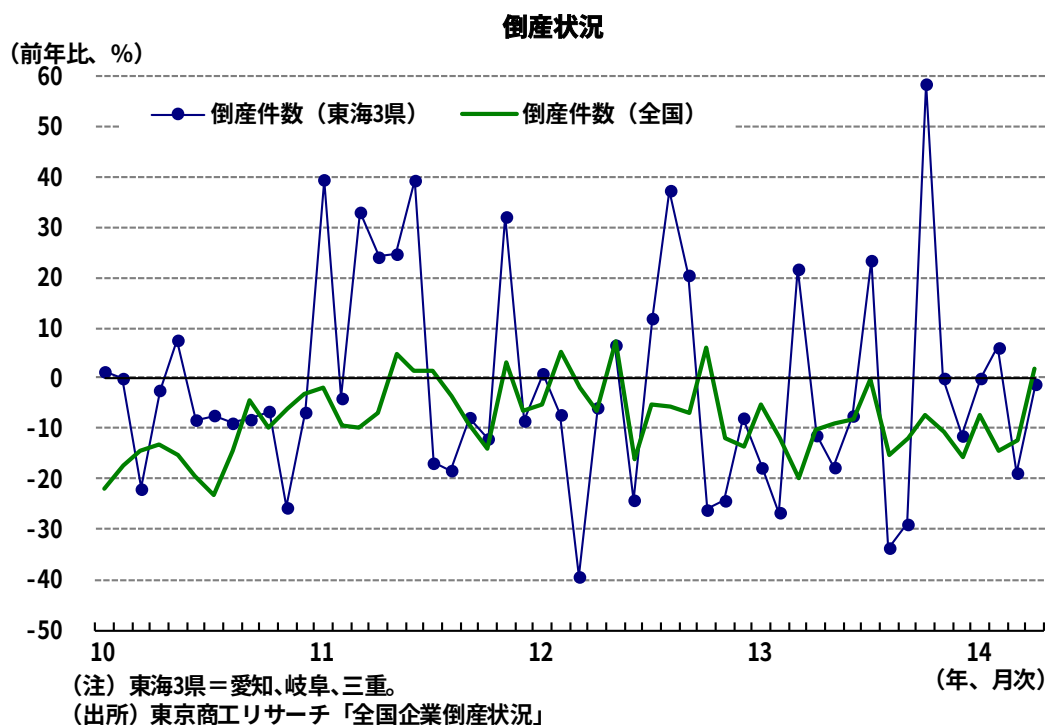
11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

○3月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、個人預金が堅調に推移し、前年比+1.7%と増加が続いている。貸出残高（国内銀行ベース）は、同+0.8%と13ヶ月連続で増加したが、一部企業でのM&A関連の大口貸出の寄与が一巡し、増加率は縮小している。4月以降は自動車が減産局面に入り、運転資金の需要も弱含むため、貸出残高は伸び悩むことが予想される。



12. 倒産 ～倒産件数、負債総額ともに減少

○4月の東海3県の倒産件数は85件と、前年比で-1.2%減少した。愛知県（同0.0%）、三重県（同0.0%）は前年比で横ばいだったが、岐阜県（同-6.3%）が3ヶ月ぶりに減少した。4月の東海3県の負債総額は、同-9.7%の151億円と2ヶ月ぶりに前年を下回った。消費増税により懸念された倒産件数の増加は限定的といえる。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		→	輸出	全国	→		↗
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		↗
個人消費	全国	↗		↘	輸入	全国	↗		↘
	東海	↘		↗		東海	→		→
	関西	↘		↗		関西	→		→
住宅投資	全国	↘		↘	生産	全国	↗		↘
	東海	↘		→		東海	→		↘
	関西	↘		↘		関西	→		↘
設備投資	全国	→		↗	雇用	全国	↗		↗
	東海	↗		→		東海	→		→
	関西	↗		↗		関西	↗		↗
公共投資	全国	↗		→	賃金	全国	→		→
	東海	↗		↗		東海	↗		↗
	関西	↗		→		関西	↘		→



：晴れ



：薄日



：曇り



：小雨



：雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は5月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		4月のコメント	5月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	持ち直しが続いているが一部に駆け込み需要の反動がみられる
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	増勢は一服	増勢は一服
	東海	増税前の駆け込み需要による増勢は一服	増税前の駆け込み需要による増勢は一服
	関西	緩やかに持ち直している	駆け込み需要が影響して高水準横ばい
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに減少している	緩やかに減少している
5. 個人消費	全国	増税前の駆け込み需要もあり増加している	増税後、反動減がみられる
	東海	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	持ち直しが続いているものの、駆け込み需要の反動がみられる
	関西	増税前の駆け込み需要もあり持ち直している	緩やかに持ち直しているが一部に駆け込み需要の反動がみられる
6. 住宅投資	全国	減少している	減少している
	東海	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	関西	減少している	減少している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している
	関西	非製造業を中心に持ち直している	非製造業を中心に持ち直している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加が一服している	増加している
	関西	増加が一服している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加傾向	輸出は横ばい、輸入は増税前の駆け込み需要もあり増加傾向
	東海	輸出は減少傾向、輸入は増加傾向	輸出は横ばい圏、輸入は減少
	関西	輸出は横ばい、輸入は増加傾向	輸出、輸入とも横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価は上昇ペースが鈍化、消費者物価は上昇	国内企業物価は上昇ペースが鈍化、消費者物価は上昇
	東海	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
	関西	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数は前年と同数、負債額は減少

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目 (11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。**【今月の景気予報】**における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。